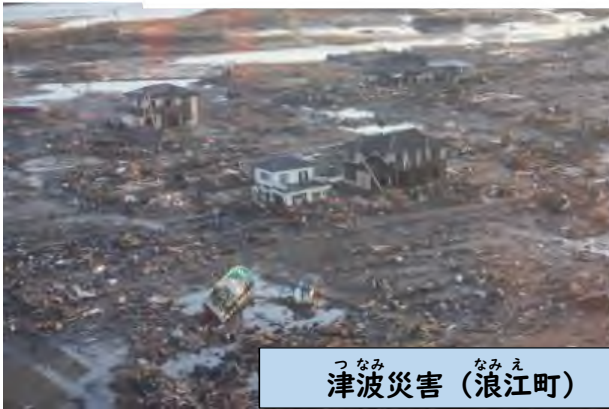
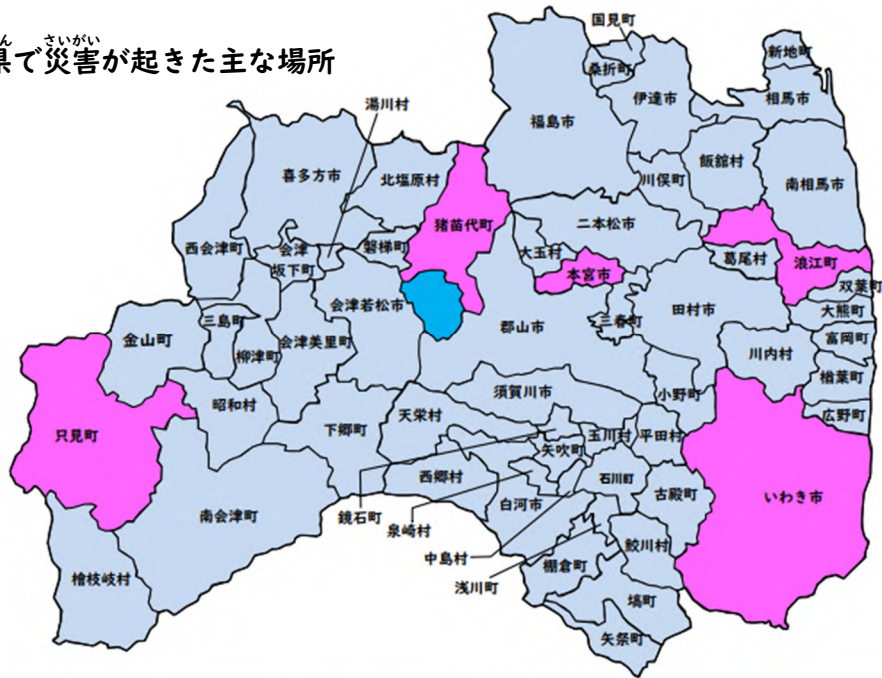


2

し ぜんさいがい 自然災害からくらしを守る

① ふくしまけん 福島県で災害が起きた主な場所



つなみ 津波災害 (浪江町)



せつがい 雪害 (只見町)

わたしたちが住んでいる福島県では、どのような自然災害が起きてきたのでしょうか。

県内のさまざまな自然災害

あおさんたちは、ふくしまけんない 福島県内でこれまでに起きた自然災害について、年表や地図を使って調べ、気づいたことを話し合いました。

自然災害

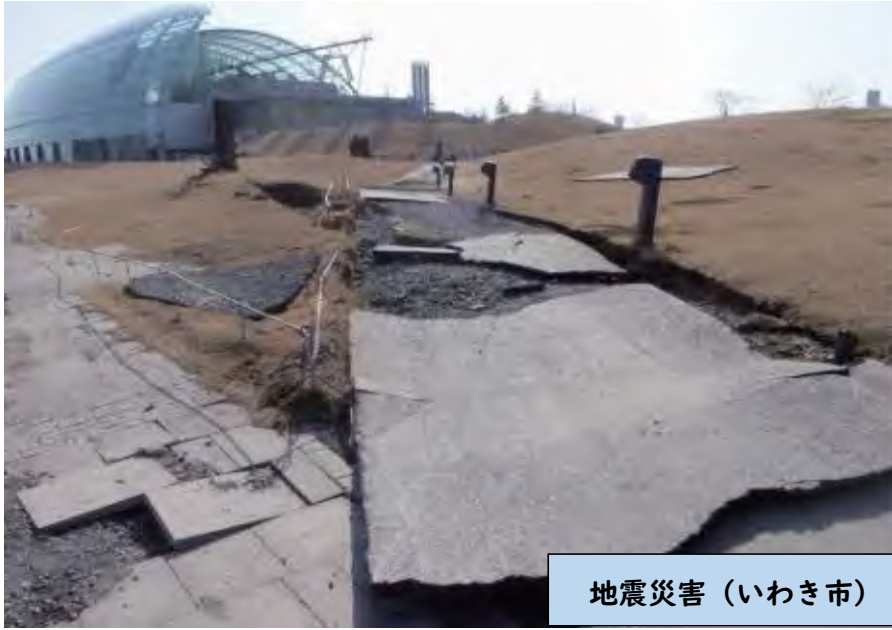
ぼう風, ごう雨, こう水, たかしお 高潮, じしん 地震, つなみ 津波, ふん火などのいじょうな自然現象によって引き起こされる被害のこと。



「毎年、日本全国のどこかで自然災害が起きてニュースになるよね。」



「山や海などの地形と自然災害は関係しているのではないかな。」



地震災害 (いわき市)



風水害 (本宮市)



火山災害 (猪苗代町)



「福島県では、台風や大雨、大雪などさまざまな自然災害が起きているんだね。」



「これらは、自然によって引き起こされるものだから、いつ、どこで起きるかわからないよね。」



「最近では、日本各地で大きな地震が続いて起きているよね。わたしたちが生まれる前に、福島県でもとても大きな地震があったと聞いたことがあるよ。」



「学校のひなん訓練で、地震が起きたときのことを考えた訓練をしたよね。」

あおさんたちは、地震災害から人々を守るために、だれが、どのようなことをしているのか調べることにしました。

年	主なできごと
1888 (明治21)	ばんだい山のふん火
1938 (昭和13)	福島県東方沖地震
1960 (昭和35)	チリ地震による津波
1998 (平成10)	大雨による災害
2006 (平成18)	大雪による災害
2011 (平成23)	東日本大震災
2019 (令和元)	東日本台風

② 福島県の主な自然災害に関する年表

自然災害から人々を守る活動について、調べてみよう。



(1) 地震からくらしを守る



① 地震の被害を受けた福島学院大学



② 地震で起きた土砂くずれ

つかむ

地震によって、どのようなことが起きるか考え、学習問題をつくりましょう。



地震が起きたら

あおさんたちは、福島県で以前に起きた地震の写真や資料などを見ながら、話し合いました。

「福島県では、2011 (平成23) 年に起きた東日本大震災をはじめ、令和に入ってから大きな地震が起きて、道路や建物、多くの家が被害を受けました。」

「東日本大震災のときには、道路や建物がこわれただけでなく、土砂くずれや津波も起きて被害が大きくなったそうだよ。」

「福島第一原子力発電所も津波で大きな被害を受けて、今でもふるさとにもどれない人たちがいると聞いたよ。」

原子力発電所

ウラン燃料を利用して、発生させた熱で発電する施設のこと。発電のときに、地球温暖化の原因の一つであるといわれている二酸化炭素を出さないというよさがあります。しかし、燃料や廃棄物のあつかがむずかしく、事故が起きると長く大きな被害が出ます。



③ 地震で被害を受けた道路



④ そうさく活動を行う消防団しょうぼうだん



「校庭にある白いポストのようなものは、原子力発電所の事故の後からつけられたらしいよ。」



「被害を受けたときには、県や国からけいさつや消防しょうぼう、自衛隊じえいたいが出動して、わたしたちを支えんしてくれるんだね。」



「地震による被害をおさえるために、福島県や福島市では、どのような対さくをしているのか調べてみたいな。」



「県や市の対さくを調べるだけではなく、わたしたちは、どのようなじゅんぴをしていけばよいのかな。」



「大きな災害の発生にそなえて、自分たちにできることについても考えてみたいな。」



⑤ 原子力発電所に津波がおしよせる様子



⑥ 校庭にあるモニタリングポスト

地震が起きたときには、どのような対応たいおうがとられ、県内の人たちはどのような行動をしてきたのかな。





① 地震でこわれた家



② 地震の後に体育館に集まった人たち

つかむ

地震によって、わたしたちのくらしはどうなるかを考え、学習問題をつくりましょう。

大きな災害にそなえて、どのような協力が必要かな。



ライフライン

電気・ガス・水道など、線や管などで結ばれた、生活に欠かせない社会施設のこと。人の動きや生活、物の流れに欠かせない交通もうもライフラインの一つです。

地震とわたしたちのくらし

あおさんたちは、大きな地震が起きると、わたしたちのくらしはどうなるのかについて話し合いました。

「家がこわれた人のために、体育館や公民館がひなん所になるんだね。」

「せまいところでみんなが生活するから、たいへんそうだね。」

「道路が通れなくなると、助けが来るまでに時間がかかってしまうよ。」

「電気、ガス、水などのライフラインが使えなくなってしまうたら、どうしよう…。」

学習問題

地震からくらしを守るために、だれが、どのようなことをしているのでしょうか。

あおさんたちは、「地震が起きる前と後」、「だれが」、「どのように」に着目して、学習問題について予想しました。



「^{けんちょう}県庁や市役所の人たちが注意をよびかけたり、『地震が起きる前と後』の対さくについて考えたりしているのではないかな。」



「災害が『起きる前』はじゅんぴが、『起きた後』は^{きょうりよく}協力が大切ではないかな。」



「地いきの人たちは、『地震が起きる前と後』の対さくについて話し合いをしているのではないかな。」



「けいさつや^{しょうぼう}消防、^{じえいたい}自衛隊などが協力しているのではないかな。」



「県庁や市役所の人、わたしたちが住んでいる地いきの人などから話を聞いてみたいな。」

【調べること】

- 家や学校、地いきでは、どのようなじゅんぴをしているか。
- 県庁や市役所、国の動きや協力体せいは、どのようになっているか。
- 福島市で予想される^{ひがい}被害の広がり、どのようなものか。

【調べ方】

- 家や学校でインタビューをする。
- 県庁や市役所のたんとうの人から話を聞いたり、メールや手紙でたずねたりする。
- 国や県、市、地いきの対さくについて、本やホームページで調べる。

【まとめ方】

- 地震からくらしを守るための取り組みについて調べたことを、カードにまとめ、話し合ったことを、他の学年の友だちに^{はっしん}発信する。



① 家具の転とう防止グッズ



② さくらさんの家でそなえているもの

調べる

家庭や学校では、地震にそなえて、どのような取り組みをしているのでしょうか。

家庭では、地震にそなえてどのようなことをしているか話し合おう。



じじよ 自助



自分の命は自分で守るということ。

家庭や学校でそなえているもの

あおさんたちは、自分たちの家庭で、地震にそなえてどのようなことをしているか話し合いました。



「地震が起きたときの行動について、家族でかくにんしました。」



「まずは、あわてずに、自分の身を守ることが大切だよ。」



「わたしの家では、高さがある家具には、転とう防止グッズをつけているよ。」



「わたしの家では、ひなんに必要なものをふくろに入れてじゅんびしているよ。」



「家族で話し合って、おたがいにれんらくができないときは、市のひなん所になっている公園に集まることにしているよ。」



「家庭での取り組みには差があるね。自助の取り組みは、これで十分なのかな。」



③ きん急時に使う^{もうふ}毛布



④ きん急時の^{しょくりょう}食料



⑤ 転とう防止の金具



⑥ ひなん所のひょうしき

次に、あおさんたちは、学校では地震にそなえて、どのような取り組みをしているか調べ、話し合いました。



「わたしたちの学校では、ひなん^{くんれん}訓練を1年間に2回行っているよね。」



「放送があると、まず身を守り、安全をかくにんした後、決められた場所にひなんするよ。」



「学校は、地いきのひなん所になっているから、きん急時に使う^{もうふ}毛布や^{しょくりょう}食料がじゅんびされているんだね。」



「転とう^{ぼうし}防止の金具をつけているのは、家庭と同じだね。」



「福島市や福島県では、地震にそなえて、どのような対さくをしているのかな。」



① 動画で学ぶ防災 (「福島市防災学習館」より)



② 福島市防災ガイド

調べる

福島市では、地震にそなえて、どのような取り組みをしているのでしょうか。

ぼうさい 防災計画

地震などの災害が起きたときに、どのように対応するかをあらかじめ決めておくものです。救助や消火、じょうほうの伝達などをどのようにするかや、住民のひなん場所などを定めています。



動画で学ぶ防災

市の取り組み

あおさんたちは、市役所に行って、地震にそなえてどのような取り組みをしているのか話を聞きました。

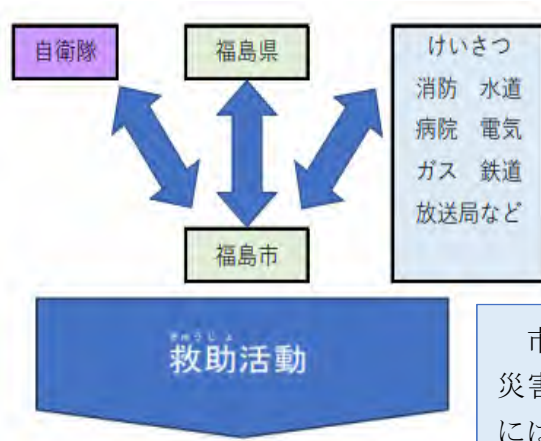
ふくしま うらざみ 福島市役所の浦住さんの話



市では、地震などの災害が起きたときにどのように対応するかなどを防災計画にまとめています。また、災害が起きたときのひなん所の場所などがわかりやすくまとめられている防災ガイドも作成しています。災害が発生したときには、きん急速報メールや防災アプリなどの方法で、ひなんの仕方やひなん所のじょうほうなどをできるだけ多くの人に伝えられるようにします。市では、ひなんした方のために約10万食の非常食と、毛布などをじゅんびしています。



③ 道の駅ふくしまの地下タンク



④ 大きな災害時の連携図

市では、大きな災害が発生した時には、県や自衛隊、けいさつや消防などと連携しながら、対応にあたっています。



「『道の駅ふくしま』には、災害が発生したときのために、水をためている地下タンクがあるそうだよ。」



「その水をひなん所などで利用するんだね。ひなん所の中には、ペットといっしょにすごせる所もあるみたいだよ。」



「福島市では、毎年、防災訓練を行っているみたいだよ。」



「大きな地震の場合、県や自衛隊、けいさつや消防とも連携して対応するんだね。」



「福島市では、災害にそなえてできることや、災害が起きたときの行動についてまとめられた動画をつくっているそうだよ。」



⑤ 土砂災害にそなえた防災訓練

市では、毎年、総合防災訓練を行っています。さいきんでは、2年連続で夜中に地震があったことから、夜間のひなんの仕方について訓練できるように、地元の方と共同で行っています。

次に、あおさんたちは、県では、どのような取り組みが行われているのか調べることにしました。



① 防災のためのイベント



② 防災クイズを使った学習会

調べる

けんちょう じしん
 県庁では、地震にそ
 なえて、どのような取
 り組みをしているので
 しょうか。



③ ていぼう (檜葉町)



④ 水門 (いわき市)

県の取り組み

あおさんたちは、^{ふくしまけんちょう}福島県庁^じに行って、県では地
^{しん つなみ}震や津波^{しん}にそなえてどのような取
 り組みをしているのか、話を聞きました。

福島県庁の丸山さんの話



県では、大きな地震が発生したとき
 の津波対さくとして、ていぼうを高くしたり、川
 に津波が流れこむことをふせぐ水門を^{せいび}整備した
 りするなどの取り組みをしています。また、^{さいがい}災害
 時に市町村でたくわえている^{しょくりょう いんりょう}食料や飲料水、
^{もうふ}毛布などが足りなくなったときのために、県でも
 たくわえをしています。

このような^{こうじょ}公助の取り組みは大切ですが、ハザ
 ードマップできけんな場所を^{かくにん}確認しておくよう
 呼びかけたり、地いきで行われる^{くんれん し}訓練を支えんし
 たりすることで、自分の命は自分で守ることや近
 所の人が^{きょうりょく}協力して助け合うことの大切さも伝
 えるようにしています。

こうじょ 公助



^{とどうふけん}国や都道府県、市(区)
^{しょうぼう}町村やけいさつ、消防
 などによるきゅう助や
 えん助のこと。

あおさんたちは、丸山さんの話を聞いて、福島県が地震や津波から命を守るために行っている取り組みについて、話し合いました。



「^{ひがしにほんだいいしんさい}東日本大震災で^{ひがい}被害を受けた^{けいけん}経験をもとに、ていぼうを高くしたり、水門を整備したりしているんだね。」



「福島市では、^{ひじょう}非常食や毛布をたくわえていると聞いたけれど、福島県でも同じようなそなえをしているんだね。」



「『そなえるふくしまノート』や『^{ひなん}マイ避難ノート』などを使って、そなえることをよびかけているところもにているよね。」



「公助の取り組みは大切だけど、自分の命は自分で守ることや、近所の人どうしで協力することも大切なんだね。」



「わたしたちの町の町内会では、どのような取り組みをしているのかな。」

次に、あおさんたちは、自分たちの町の町内会では、どのような取り組みをしているのか、調べることになりました。



⑤ そなえるふくしまノート

さまざまな災害に対してふだんから「そなえる」ことの大切さや災害が起きたときの「身を守ること」の大切さについてまとめられたノート。



⑥ ふくしま^{ひなん}マイ避難ノート

ひなん行動をいざというときにすみやかに行うためにふだんから「^{ひなん}マイひなん」を考え、^{さくせい}作成されたノート。



① 自主防災組織の集合訓練の様子

調べる

地いきの人々は、地震にそなえて、どのような取り組みをしているのでしょうか。

地いきの人々の取り組み

福島市には、自主防災組織という、災害のときに助け合い、地いきの人々を守っていく組織があります。あおさんたちは、自主防災組織では、どのような取り組みをしているのか、地いきの人に話を聞きました。

自主防災組織の山田さんの話



わたしたちが住む地いきは、川にかこまれているため、大雨がとても心配です。

災害が起きたときのために、自助だけでなく、地いきの人たちが支え合う共助を大切にしています。そのため、自主防災組織をつくり、役割を分担しながら活動しています。地いきの会社とも連けいをはかり、合同で訓練も行っています。

地震が起きたときには、公園をひなん場所とします。公園には、トイレと水道があるほか、テントやテーブル、いすなどが保管されている倉庫もあり、ひなんしたときに使うことができます。

自主防災組織



地震などの災害が起きたときに、地いきの住民が「自分たちのまちは自分たちで守る」という思いのもと、自主的につくられる組織のこと。地いき住民が協力することで、より大きな力をはっきりできます。



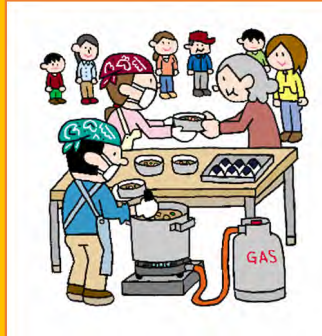
① 救出救護部は、けが人の応急手当を行い、病院や救護所に運びます。



② 予備消化部は、消火器を使って初期消火をします。



③ ひなんゆうどう部は、地いきの人をひなん場所まですばやく、安全に連れて行きます。



④ 物資部は、たき出しを行ったり、食料品や飲料水、生活用品を配ったりします。



⑤ じょうほう部は、被害のじょうきょうをはあくしたり、必要なじょうほうを伝えたりします。



「大きな災害が起きたときは、自分の身は自分で守る自助だけでなく、地いきで助け合う、共助も大切なんだね。」



「災害が起きたときに、だれが何をするのか部ごとに役割が決まっているんだね。」



「地いきの会社と合同で訓練をするなど、連けいをはかっているそうだよ。」



「地いきの人たちの自主的な取り組みも、災害からくらしを守るために大切なことなんだね。」

② 自主防災組織の主な活動

自主防災組織は、部に分かれてきん急時に活動します。

きょうじょ 共助



近所の人がおたがいに協力して助け合い、地いきを守ること。

自主防災組織は、なぜつくられたのかな。



まとめる

地震からくらしを守るための、家庭や学校、市や地いきの住民の取り組みについて、まとめましょう。

学習問題

地震からくらしを守るために、だれがどのようなことをしているのでしょうか。

ことば

- げん しりょくはつてんしょ 原子力発電所
- ライフライン
- じじよ 自助
- ぼうさいけいかく 防災計画
- こうじよ 公助
- じしゅぼうさいそしき 自主防災組織
- きょうじよ 共助

自分や家、学校、市や県、地いきの取り組みについて、考えたことや気づいたことを話し合ってみよう。



じしん 地震からくらしを守る取り組みをまとめる

あおさんたちは、地震からくらしを守る取り組みについて調べたことをふり返り、学習問題について考えたことをカードにまとめることにしました。



「まずは、自分の身は自分で守ることが大切だよ。」



「自分の身を守った後は、ご近所どうしの助け合いがとても大切だよ。」



「さいがい災害時には、ほかの地いきからボランティアの人たちが来ることもあるみたいだよ。」



「きんきゅうきん急のときは、市や県、けいさつけいさつやしょうぼう消防がきょうりょく協力してたいおう対応にあたっていることがわかったよね。」



「市や県、地いきの人々は、さまざまなそなえをしているけれど、ひとりひとりの防災いしきを高めることが大切だということもわかったよね。」

【あおさんたちがまとめたカード】

自分の身は自分で守る

自助

- ・ 落ち着いて行動する
- ・ つくえやテーブルの下にもぐる
- ・ ひなんリュックを用意する
- ・
- ・
- ・

学校や地いきで助け合う

共助

- ・ ご近所づきあいを大切に
- ・ ひなん^{くんれん}訓練を行う
- ・ きん急^{しょくりょう}の食料や水、毛布^{もうふ}などをじゅんびしておく
- ・
- ・

市や県、国などによる助け

公助

- ・ 防災計画^{さくせい}の作成・周知^{しゅうち}
- ・ 自助・共助のしえん
- ・ 防災訓練やイベントのじっし
- ・
- ・
- ・

ほかの地いきとの助け合い

ごじょ 互助

- ・ ボランティア活動^{すいしん}の推進
- ・ ボランティア活動の受け入れ
- ・ 募金^{ぼきん}活動
- ・ 助け合い活動
- ・
- ・

空らんのところに、調べたことを書きこんでみましょう。



「自助^{じじょ}については、ふだんから家族で話し合っておくことが大切だね。」



「共助^{きょうじょ}については、ご近所にどのような人たちが住んでいるか知っておく必要があるよ。」



「大きな災害^{こうじょ}のときは、公助^{こうじょ}がとても重要^{じゅうよう}になってくるんだよね。」



「共助に加えて、ほかの地いきと助け合う『互助^{ごじょ}』の取り組みをもっと広めていきたいね。」

「自助^{じじょ}、共助^{きょうじょ}、公助^{こうじょ}、互助^{ごじょ}、それぞれの役割^{やくわり}をくらべながら考えてみよう。」



広げる

地震じしんが起きて、学校がひなん所ひなんじょになった場合、自分はどうか考えてみましょう。

ひなん所シミュレーション

あおさんたちは、これまでの学習をふり返り、学校や地いききょうじょで助け合う「共助」について、もっとよく考えてみたくなりました。

そこで、「ひなん所シミュレーション」をやってみることにしました。

立場

だれの立場になって考えるのか。

問題カード

ひなん所の職員しよくいん

ひなん所ひなんじょになっている体育館には300人がひなんしています。200人分のべんとうがとどきました。このおべんとうをすぐに配りますか。

はい : 配る

いいえ : 配らない

選たくし

自分ならどうするのかを選ぶ。

問題

置おかれているじょうきょうと問題。

【シミュレーションの進め方】

- 1 3～4人くらいのグループをつくる。
- 2 つくえの中央に「問題カード」を置き、当番がゆっくりに2回読む。
- 3 各自かくじ、「はい」か「いいえ」かよく考え、「はい」の場合は手を「パー」に、「いいえ」の場合は「グー」にして、いっせいにあげる。
- 4 一人ずつ「はい」か「いいえ」にした理由を言う。
- 5 その後、友だちの意見を聞いて、さらに考えたことなどを発表する。

これは、いろいろな立場になり、自分なりの考えをたがいに伝え合うものです。正解せいがいはありません。なぜそう考えたのか、その理由を伝え合うことで、いろいろな見方や考え方にふれることが大切です。

「はい」を選んだ2人の理由



「せっかくのおべんとうが、くさってしまったらもったいないから。」



「小さい子どもやお年より、病気の人に、まずは食べものをあげた方がよいから。」

「いいえ」を選んだ2人の理由



「全員に公平に配るのはむずかしいし、もらえるかももらえないかでけんかになりそうだから。」



「たくわえてある食べものが、どのくらい残^{のこ}っているのかたしかめてから配った方がいいと思うから。」

そのほかの問題についても話し合ってみよう

住民

大きな地震^{じしん}が起きて、小学校の体育館にひなんしなければなりません。家族同然^{どうぜん}の犬をつれて行きますか。

はい : つれていく

いいえ : つれていかない

小学4年生の児童

家で一人。大きな地震^{じしん}が起きて、つくえの下にもぐりました。その後も余震^{よしん}が続いています。外ににげますか。そのまま待ちますか。

はい : 外ににげる

いいえ : そのまま待つ

住民

真冬の朝に大きな地震^{じしん}が発生。ひなん所まで歩いて20分かかりますが、公民館^{こうみんかん}には5分で行けます。まずは、公民館に行きますか。

はい : 行く

いいえ : 行かない

ひなん所の職員

ひなんしている人から、「家族の安否^{あん}を確認^{かくにん}したいから、けいじ板に名前^なを張りだしてほしい」というお願い^{ねが}がありました。安否情報^{じゆうほう}が確認できるように、すぐに張り出しをしますか。

はい : すぐに張り出す。

いいえ : すぐには張り出さない。

立場をかえて考えてみると、いろいろな見方や考え方に気づくことができるよ。

